

事例紹介「学習成果測定に係る取組～IRコンソーシアム加盟校の現状と課題～」

鹿児島大学における取組

神戸大学 評価・IRシンポジウム

「学習成果を把握するための評価・IR活動」 2014.08.28

鹿児島大学 教育センター 高等教育研究開発部 准教授
学長補佐(企画・評価・IR担当)
IRセンター長

渋井 進

構成

- 大学の概要と学内の組織体制
- 所属組織の学内の位置づけ、業務
- IRコンソーシアム加盟の経緯
- IRコンソーシアムを通じた学修成果把握に係る取組例
- 課題と今後の展望

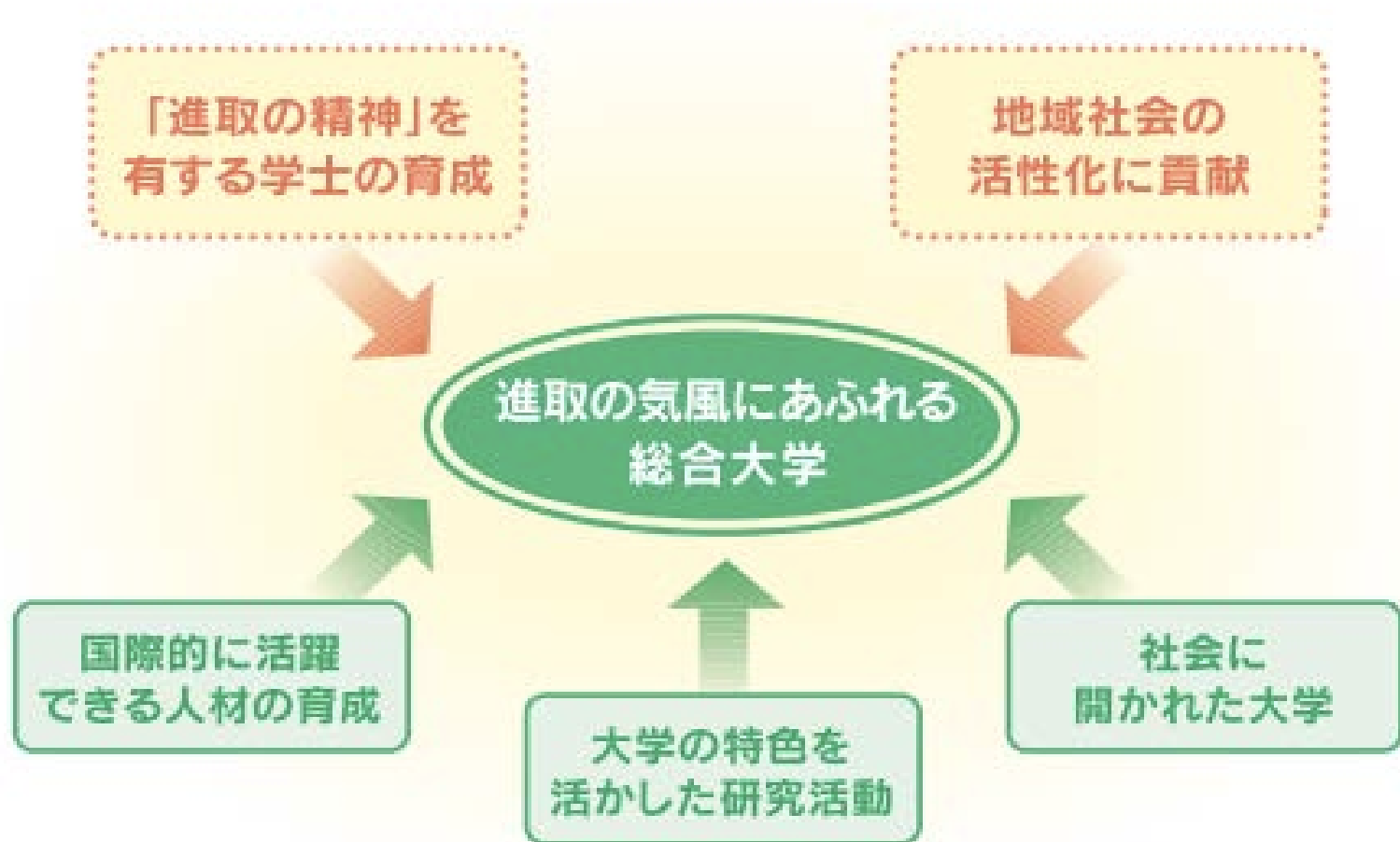
構成

- 大学の概要と学内の組織体制
- 所属組織の学内の位置づけ、業務
- IRコンソーシアム加盟の経緯
- IRコンソーシアムを通じた学修成果把握に係る取組例
- 課題と今後の展望

鹿児島大学

- 9学部10研究科、約9,000名の学部学生と約2,000名の大学院生。(九州で2番目に多い学生数)
- 学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学
- 重点領域研究
 - － 島嶼、環境、食と健康、水、エネルギー－

第2期中期目標期間の 大学の基本的な目標



進取の気風広場

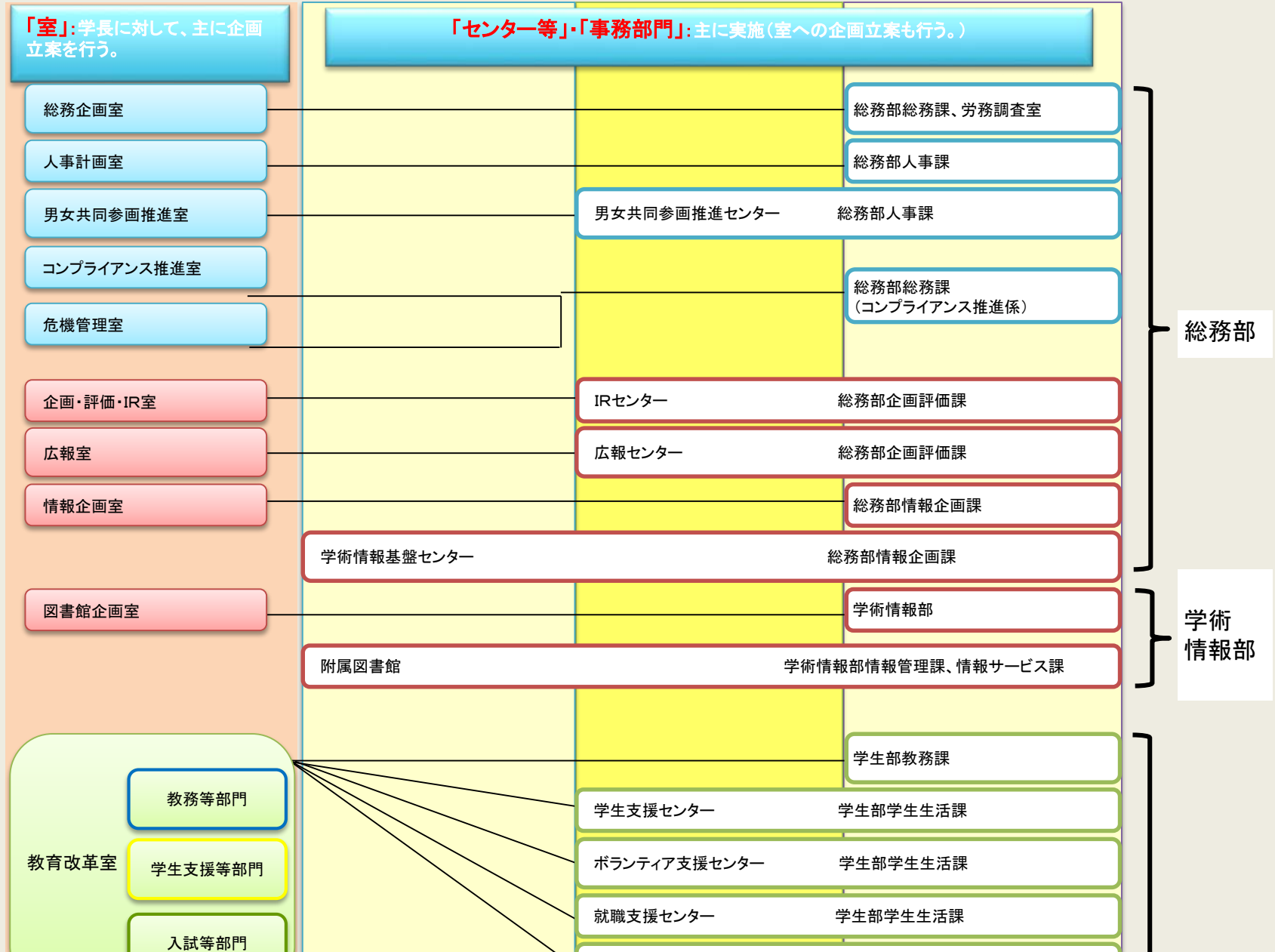


マスコットキャラクター「さつつん」



- 鹿児島市発祥である氷白熊からヒントを得て、大きなしろくまのキャラクターに薩摩の偉人たちの歴史を思わせる紋付き袴を着せ、頭に桜島を乗せてあります。
(HPより抜粋)

組織体制「室体制」



構成

- 大学の概要と学内の組織体制
- 所属組織の学内の位置づけ、業務
- IRコンソーシアム加盟の経緯
- IRコンソーシアムを通じた学修成果把握に係る取組例
- 課題と今後の展望

所属組織

- 教育センター－高等教育研究開発部
- 学長補佐(企画・評価・IR)担当
- (IRセンター長)

2つの顔があり、それぞれ立場の利益がぶつかる場合も。

教育センター—高等教育研究開発部

- 学生部教務課(教育担当理事、教育改革室)と連携
- 部長1名(兼務)、専任教員2名(准教授2)、各学部選出委員(9名)
- 目的
 - 高等教育の教育方法及び教育支援等の研究開発
 - FDの研究開発、実施及び授業改善
 - 共通教育棟の授業・カリキュラム、専門教育との連絡調整について検証・提案
 - 教育評価の研究開発及び自己点検・評価 等

企画・評価・IR室

- **総務部(企画担当理事)**の管轄
- 理事、学長補佐(2名)、総務部長、課長、課長代理(2名)、係長(2名)、係員(2名)、事務補佐員
- 業務
 - － (1) 将来構想に関すること。
 - － (2) 中期目標、中期計画及び年度計画の原案の作成並びにその評価への対応に関すること。
 - － (3) 認証評価への対応に関すること。
 - － (4) 自己評価に関すること。
 - － (5) 企画・評価に関し、各理事及び各部局等との連携・調整に関すること。
 - － (6) 大学の運営及び評価に係る情報の収集、調査、分析及び活用の総括に関すること。
 - － (7) 本学の運営及び評価に係るシステムに関すること。
 - － (8) 本学の運営及び評価に係る指標、分析手法等の開発に関すること。
 - － (9) その他企画・評価並びに本学の運営及び評価に係るIRに関すること。

IRセンター

- 昨年5月に設置
- 学長補佐、事務局各部長、医学部・歯学部附属病院事務部長、企画評価課長
- 国立大学法人鹿児島大学IRセンター要項
 - － 第2 センターは、次に掲げる事項の実施をつかさどる。
 - － (1) 大学の**運営及び評価に係る**情報の収集、調査、分析及び活用の総括に関すること。
 - － (2) 本学の**運営及び評価に係る**システムに関すること。
 - － (3) 本学の**運営及び評価に係る**指標、分析手法等の開発に関すること。
 - － (4) その他本学の**運営及び評価に係る**IRに関すること。

構成

- 大学の概要と学内の組織体制
- 所属組織の学内の位置づけ、業務
- IRコンソーシアム加盟の経緯
- IRコンソーシアムを通じた学習成果把握に係る取組例
- 課題と今後の展望

IRコンソーシアム加盟に 関連した経緯

- 2012年4月 私の鹿児島大学への着任
- 2012年7月 学長が参加をトップダウンで指示
- 2012年10月 教育改革室部門長会議にて決定後、正式に入会
- 2012年12月 1年生調査(試行、200名に実施)
- 2013年5月 (IRセンター設置、企画・評価・IR室)
- 2013年7～翌1月 WGでの検討と、実施要項の作成(学生部教務課)
- 2013年12月 1年生調査(400名に実施)、試行調査の報告書刊行

「鹿児島大学共通教育における学習 実態・学習成果に関する調査」

- 全学FD委員会が主体となって、2010年から2012年までの3年間実施。
- 学生アンケート。
- 3年間での回答の変化はほとんどない。



調査の内容

- 対象 2年終了時の学生1500名程度
- 質問項目
 - － 基本事項
 - － 日頃の行動・習慣・考え
 - － 共通教育科目の受講の有無および予習・復習の時間
 - － 共通教育科目の授業における学習の仕方
 - － 共通教育において受講した授業形態
 - － 共通教育において経験したこと
 - － 共通教育において入学時点と比べて変化したこと
 - － 共通教育の授業を通して身についた知識・技能・態度
 - － 学期中における各活動の一週間あたりの平均時間
 - － 鹿児島大学に対して

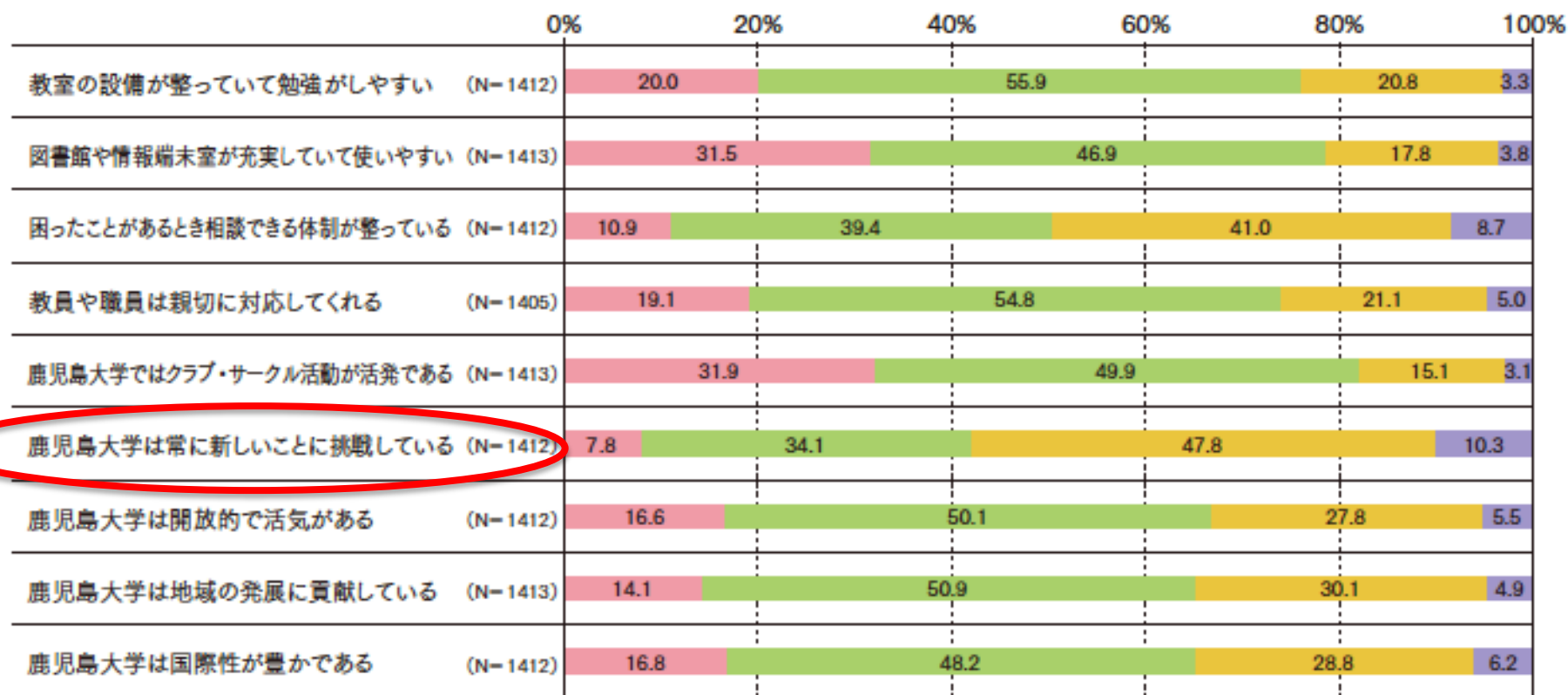
調査の限界

- 現状把握を目的としており、直接的に改善案を導ける設計ではない。
 - 改善案のためには、コンソーシアム加入で他大学と比較可能なデータを取るべきであると提案したが。
- 比較の問題
 - 並列に比較して判断していい項目か？
 - 他大学等との状況で比較なら意味があるが。

問 10

鹿児島大学に対して

■ 強くそう思う ■ 少しそう思う
■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

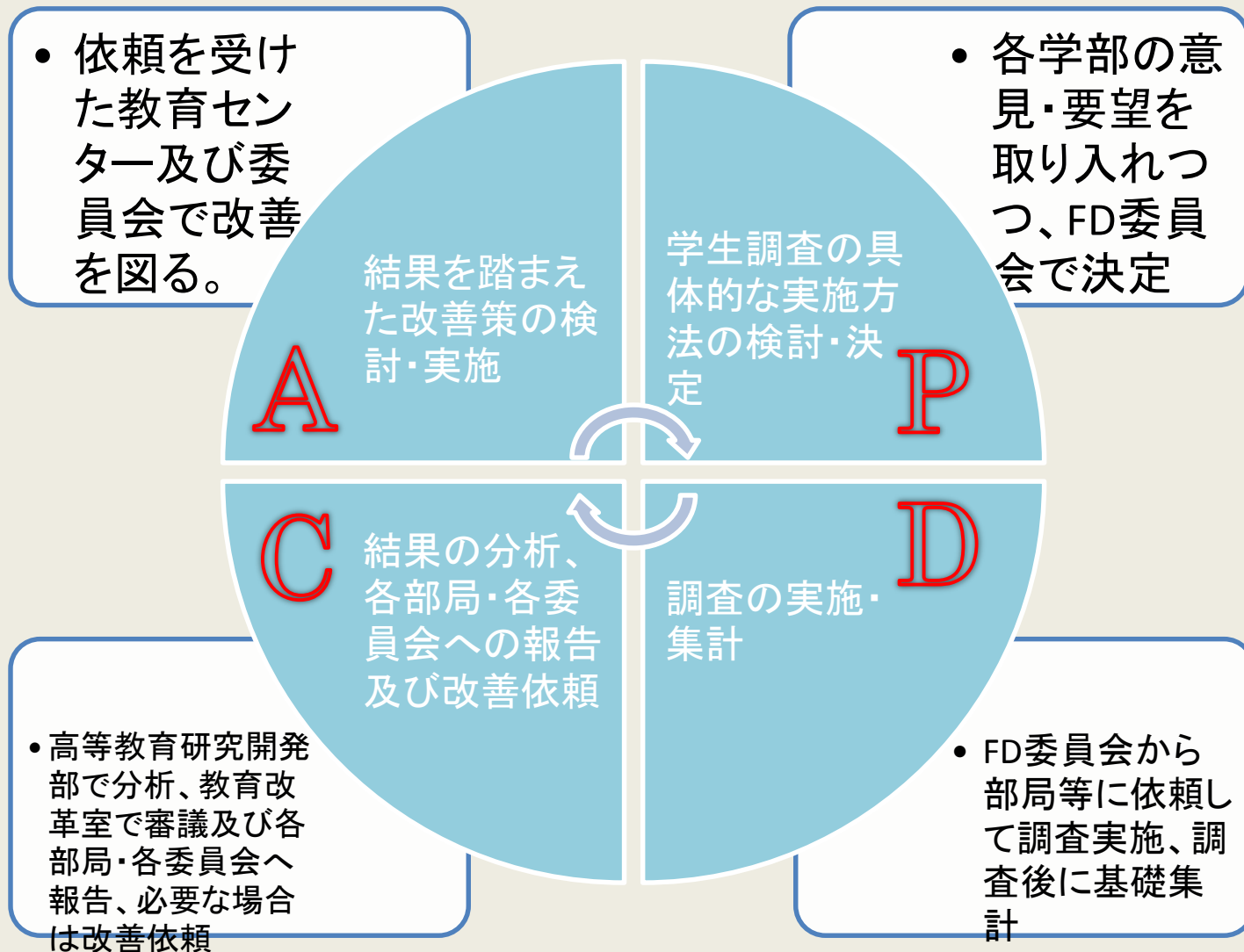


鹿児島大学に対する学生の満足度を表しているが、一番、評価が高いのは「クラブ・サークル活動の活発さ」であり、施設等や教職員の対応等にもある程度の好意的評価がみられるが、「相談できる体制」づくりは遅れていることがわかる。大学のイメージについて「鹿児島大学は開放的で活気がある」は3分の2程度が好意的評価をもっているが、「鹿児島大学は常に新しいことに挑戦している」とはみていない学生の割合が高い。

構成

- 大学の概要と学内の組織体制
- 所属組織の学内の位置づけ、業務
- IRコンソーシアム加盟の経緯
- IRコンソーシアムを通じた学習成果把握に係る取組例
- 課題と今後の展望

IRコンソーシアム学生調査の 学内での運営サイクル



想定する分析結果の利用(予定)

- 基礎集計後の調査結果の分析を教育センター-高等教育研究開発部で行う。
- 分析結果を踏まえて教育改革室で審議を行い、各部局及び各委員会へ報告(報告書の送付)するとともに、改善が必要と認められる場合は改善を依頼する。例としては以下が考えられる。
 - FD委員会(教育方法の改善に関する内容)
 - 教務委員会(カリキュラムに関する内容)
 - 教育センター(特に1年生調査のカリキュラム等に関する内容)
 - 教育センター-外国語教育推進部(英語教育に関する内容)

具体的な分析事例

- 2012年の試行的調査報告書から一例。
- 英語に関するこれまで学内で行っていた調査結果の事例と、IRコンソーシアム調査データの項目同士を組み合わせた、試行的分析例。

分析事例 外国語

- 鹿児島大学の英語教育は、本当に成果が上がっていないのだろうか？

問7

共通教育において 入学時点と比べて変化したこと

A

入学時点と比べて変化した能力

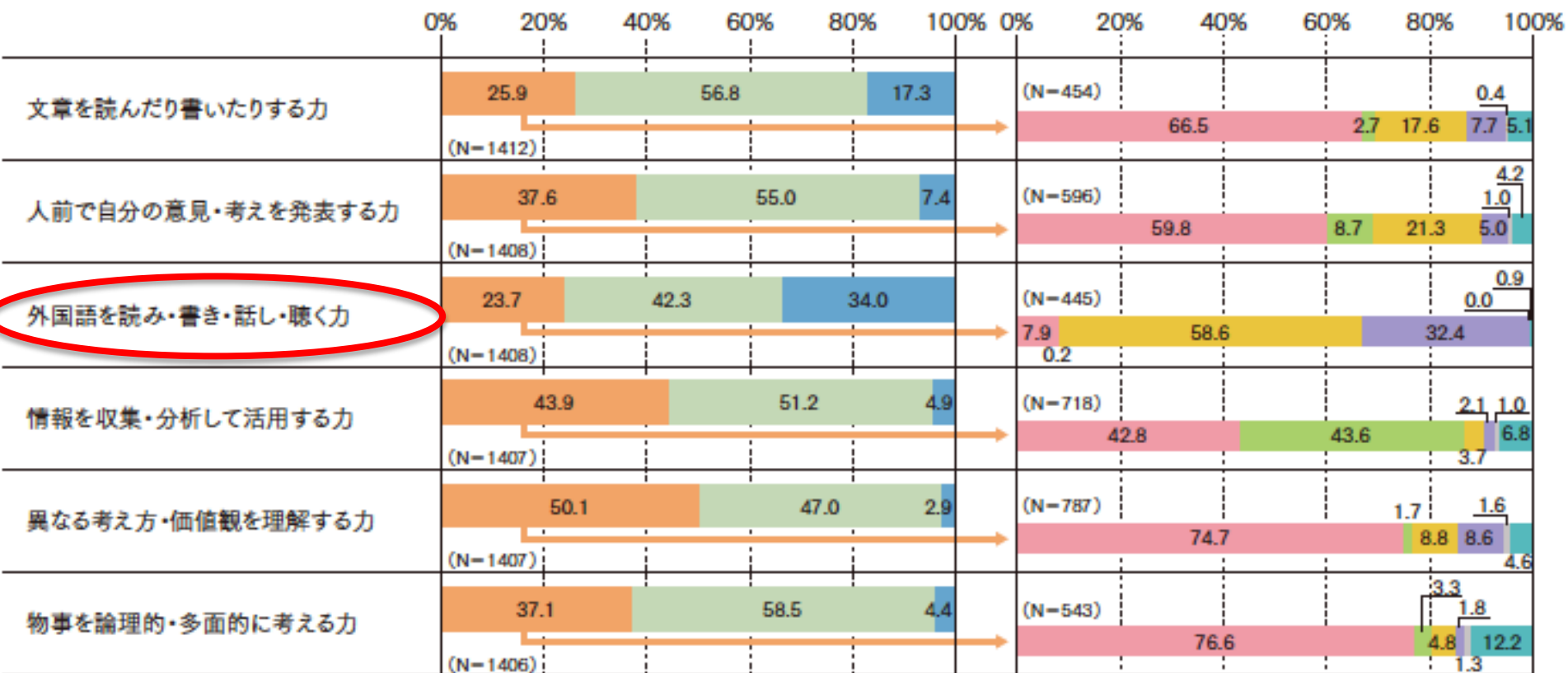
伸びた どちらともいえない 落ちた

B

共通教育において能力の向上に役立った科目

(Aにおいて「伸びた」と回答した場合のみ対象、複数回答可)

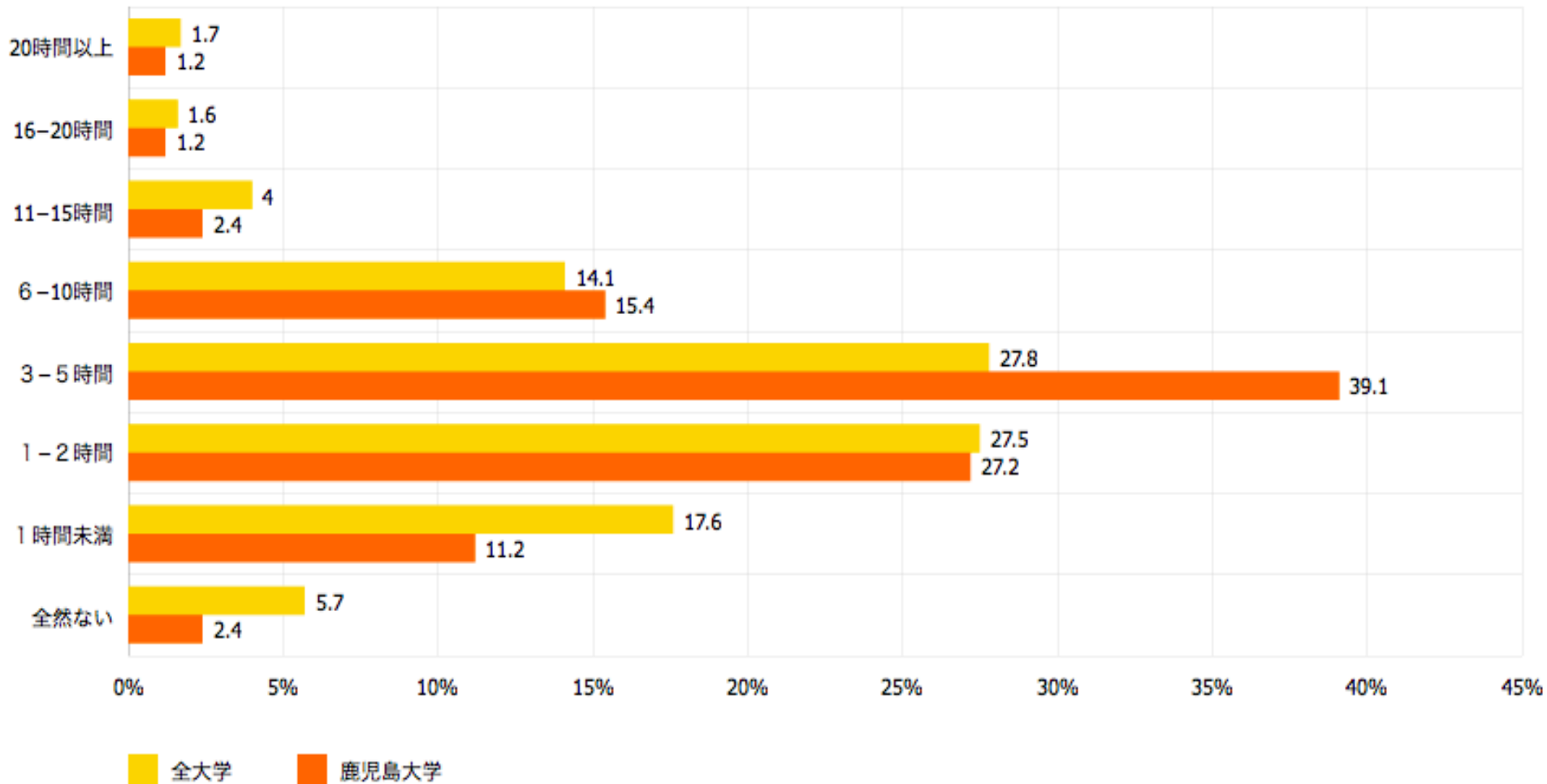
■ 教養 ■ 情報科学 ■ 外国語(英語)
■ 第2外国語 ■ 体育健康 ■ 基礎教育



分析事例

- 時間外学習時間を増加させるために

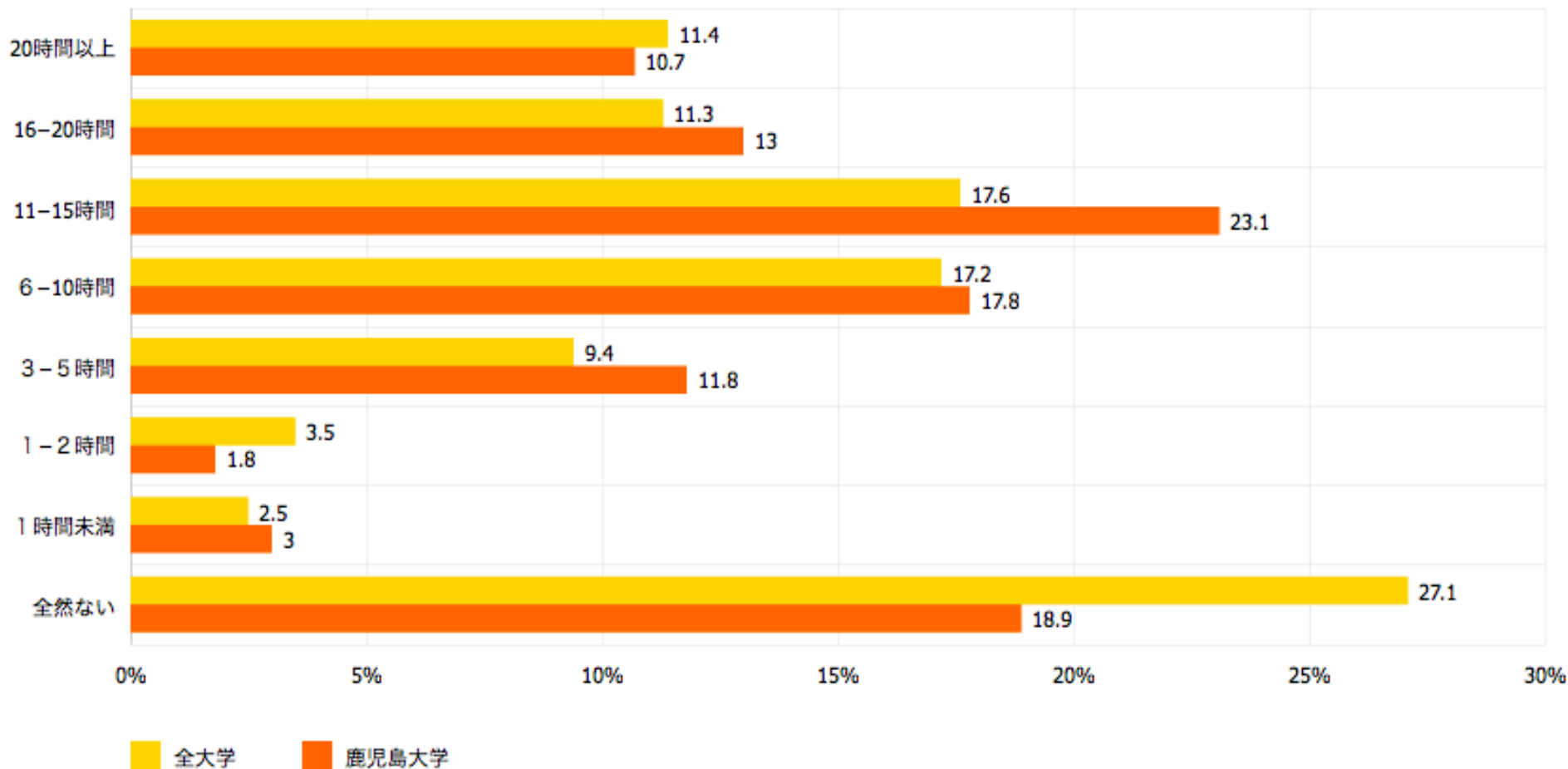
[問9B]週あたりの活動時間：授業時間以外に、授業課題や準備学習、復習をする」



他の「週あたりの活動時間」 に関する項目

- [問9A]授業や実験に出る
- [問9C]授業時間以外に、授業に関連のない勉強をする
- [問9D]オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する
- [問9E]部活動や同好会に参加する
- [問9F]大学外でアルバイトや仕事をする
- [問9G]読書をする(マンガ・雑誌を除く)
- [問9H]個人的な趣味活動をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など)

「[問9F]週あたりの活動時間:大学外でアルバイトや仕事をする」



課題と今後の展望

- 企画・評価課と教務課の連携（縦割りの問題）
- 教務課と学部教育との連携
 - － 学部における利用の推進。
 - － 今度の法人評価の現況分析の存在が、学部への普及の牽引役となるか。
- 分析方法の充実
 - － 自由度の高い分析手法から、何を用いるか。
 - － GPA等の「大学基本情報」と結びつけてどう使うか。
- 分析結果の有効活用
 - － 英語教育が入りやすいか。
- IRセンターの見直し
 - － 今年秋、アドミッションセンターに専任教員。